



特文連 会長あいさつ

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、行動制限が緩和され、徐々に以前のような生活が戻ってきました。各校では、感染症対策は継続しつつも、様々な場所に出かけたり招いたりと交流・経験が直接できるようになり、学校の教育活動全般が活発に展開されてきています。

とはいえ、学校の教育活動は、外に出るだけでなく、校内での日々の教科等の学習や生活の中の基礎・基本の学びが最も大事です。その中では、知識はもちろんですが、全身の感覚を使った周囲の環境（明暗、色、形、音、におい、手触り等）の受信、体の動かし方、道具の操作、自分の思いの表現、他者とのコミュニケーション…など、生の体験を通した学びは外せません。美術に関する活動の「絵を描く」、「造形作品を作る」ことも、その中身を分析すると上記のようなたくさんの要素が含まれかつ複雑に絡み合っています。

私達人間は、心が動いたら様々な形で表現したくなります。制作に向かう子どもたちの眼差しはとても真剣で、しかも楽しそうです。また作品を観る側にとっても、型にはまらない生き生きした作品は、想像力をかきたて、様々なイメージを広げてくれます。それこそが芸術に触れる喜びではないでしょうか。

特別支援学校文化連盟の発足及びわくわく美術展が始まってから、今年は20周年を迎えます。今年度のわくわく美術展は、令和5年12月1日（金）～4日（月）秋田市にぎわい交流館 AU（あう）で行われます。これまで毎年、魅力的な作品がたくさん生み出されてきました。

今年の特別支援学校文化祭のテーマは、「広がれ うれしい たのしい みんなのハート」です。児童生徒の皆さん、どうぞ自由にのびのびと、素材との触れ合いを楽しみながら制作してください。その「わくわく」はきっと観た人にも伝わり、みんなの心（ハート）を動かす美術展になることでしょう。今年はどんな作品と出会えるでしょうか。今から楽しみです。

なお、美術展は、遠方の皆さんにもご覧いただけるよう、大館市、能代市、大仙市の3か所でも巡回展を行う予定です。日程や場所は後日ポスターやこのホームページ上でもお知らせいたします。多くの方に足を運んでいただけたら幸いです。皆様どうぞご期待ください。

令和5年6月

秋田県特別支援学校文化連盟 美術部会長
秋田県立ゆり支援学校長 近藤 千晴